

みなさまの保険情報

INSURANCE INFORMATION

TOPIC

ドライブレコーダーは第二の保険!

自動車は今や社会機能の大きな要素を担っていますが、事故が起きた時の原因究明は明治以来の手法と変わっていません。事故当事者に状況を聞くといった方法が主流ですが、人の記憶や認識は信憑性に乏しく、当事者同士の主張が食い違うケースが多いものです。また目撃者からの情報も曖昧で、事実認定をますます難しくしているのが現状です。

すなわち、ドライバーは事故の状況を正確に認識しておらず、保身のために都合の良い主張をしがちですし、目撃者は全ての状況を一部始終把握しておらず、思い込みを含めた証言になりがちです。

ドライブレコーダーは陸上のフライトレコーダー

飛行機事故が起きたとき、まず回収されるのがフライトレコーダーです。これを解析することで事故の真相はほぼ解明されます。ドライブレコーダーはフライトレコーダーと同様の目的で開発された、車載式画像記録装置なのです。下図のように、直近の約1時間の画像と音声を常に記録保存しています。



ドライブレコーダーは車のフロントガラスの内側に装着しますが、〔写真1〕の通り、簡単に取り付けることができます。

ドライバーの視界内に起きる全ての現象を画像と



して捕らえ、同時に音声も録音できます。〔写真2〕は交差点を青信号で走行していた車に、信号無視をした車が交差点に進入し、衝突したときの事例画像です。

相手は当然ながら青信号を強く主張したそうですが、この画像を見て納得し、非を認め、もめることが日常化している賠償交渉も、スムーズに解決したとのこと。

安全運転トレーニングでも注目

画像を記録する技術の飛躍的な進歩により、個人でも安価で小型で耐久性の優れた画像記録装置（ドライブレコーダー）を入手することが可能になりました。

『百聞は一見に如かず』の言葉どおり、捕らえた画像を『一見』することで正確な事実認定ができ、捜査の段階で事実関係を確認できれば、立件後に裁判で争うケースは少なくなり、長期化する交通裁判も簡素化できます。

またドライブレコーダーは、高齢者や若葉マークのお子さんの運転画像を家族で見ることにより、悪い癖や危険な運転をお互いに指摘して事故を未然に防ぐなど、利用範囲は広がっています。

ドライブレコーダーは、交通規則を守り、安全運転をしている皆様の正当性を、第三者が目撃してくれる「第二の保険」なのです。